



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—ダウ平均と S&P500 が史上最高値を更新—

	前週終値	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	7月15日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,146.74	18,226.93	18,347.67	18,372.12	18,506.41	18,516.55	+369.81	+2.04%
騰落幅		+80.19	+200.93	+24.45	+134.29	+10.14		
S&P500	2,129.90	2,137.16	2,152.14	2,152.43	2,163.75	2,161.74	+31.84	+1.49%
騰落幅		+7.26	+22.24	+0.29	+11.32	-2.01		
ナスダック総合指数	4,956.76	4,988.64	5,022.82	5,005.73	5,034.06	5,029.59	+72.83	+1.47%
騰落幅		+31.88	+66.06	-17.09	+28.33	-4.47		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は、主要 3 指数が揃って大幅に上昇しダウ平均と S&P500 は史上最高値を更新しました。

JP モルガン (JPM) などの一部金融株の良好な決算が好感されたほか、良好な経済指標の発表も買い材料となりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



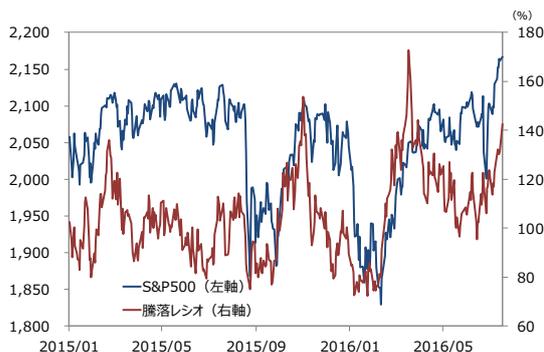
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	17.3	3.2	2.6%
S&P500	18.4	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	21.9	3.6	1.2%

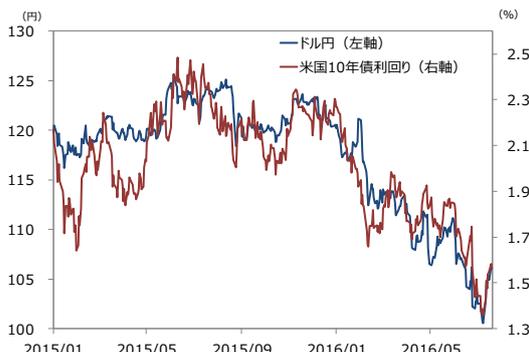
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年7月18日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

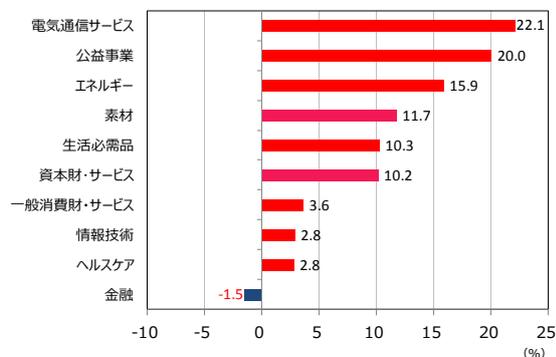
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

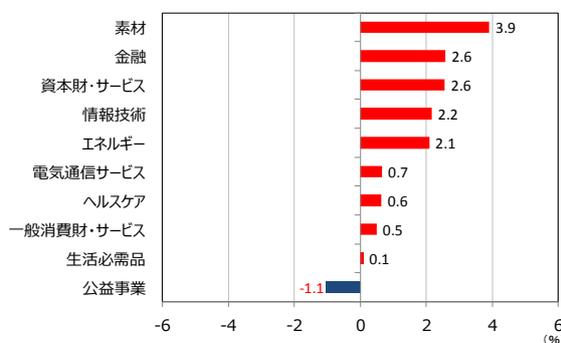
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (7/11-7/15)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	7.5
DD	イー・アイ・デュポン・ノボ・ドゥ・ヌムール	5.4
CAT	キャタピラー	4.3
JPM	JPMorgan・チェース・アンド・カンパニー	3.8
AXP	アメリカン・エクスプレス	3.7
IBM	IBM	3.4
INTC	インテル	3.1
MSFT	マイクロソフト	2.7
V	ビザ	2.5
MMM	3M	2.4

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (7/11-7/15)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
WMT	ウォルマート・ストアーズ	-0.2
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-0.1

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中28銘柄が上昇しました。中でもゴールドマン・サックス (GS) が7.5%上昇してダウ平均構成銘柄中トップの上昇率となったほか、JPモルガン (JPM) も4%近く上昇するなど金融株が買われました。

<下落>

ウォルマート・ストアーズ (WMT) とベライゾン・コミュニケーションズ (VZ) の2社が小幅に下落しました。マーケットがリスクオンに傾くなかディフェンシブセクターの一角が売られました。

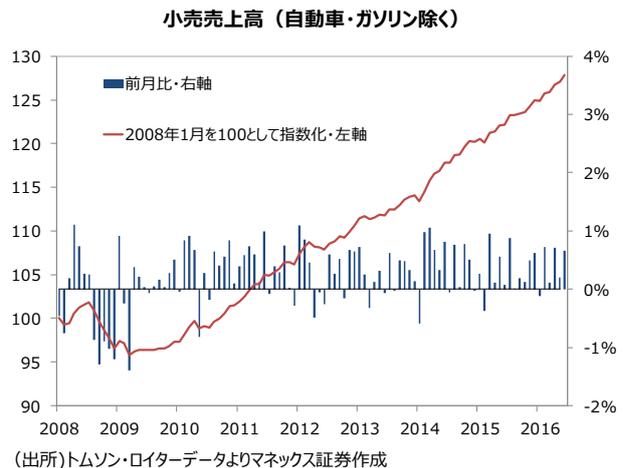
先週発表された主な経済指標

小売売上高（前月比） 6月 +0.6% 市場予想 +0.1% 前月 +0.5%

小売売上高（自動車・ガソリン除く） 6月 +0.7% 市場予想 +0.3% 前月 +0.3%

6月の小売売上高は前月比0.6%の増加と市場予想を大幅に上回りました。また、変動の大きい自動車・ガソリンを除いた売上高は前月比0.7%増とこちらも大幅に増加しました。

米国の個人消費が好調に推移していることが裏付けられた格好で、米国株にとってポジティブな内容です。



今後発表される主な経済指標

6月 中古住宅販売件数 市場予想 548万件 前月 553万件

21日に6月分の中古住宅販売件数が発表されます。6月分は市場予想では販売件数は548万件と前月からやや販売が鈍る見込みですが、水準自体は堅調なものとなる見込みです。



マーケットビューー騰落レシオは高水準で利益確定売りしやすい局面

先週のマーケットビューーでは、米国株の予想 PER が高水準にあることから押し目買いのスタンスが望ましいのではないかと記しました。結果、ダウ平均は連日で史上最高値を更新するなど押し目をつけることなく上昇を続けました。

引き続き米国株の予想 PER は 18 倍台とやや割高感があることに加えて、筆者が独自に算出している S&P500 の騰落レシオは 140%程度まで上昇しています。短期的に見てやや過熱感があり、史上最高値更新後ということもあって利益確定売りがしやすい局面だと考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会